

繋ぐ 人と街と川 — 川辺のコミュニティセンター



水辺の可能性を考える

目指したいのは都市と水辺の関係を繋ぐことである。多様化していると都市や人に対して新しい水辺プランの検討を行う。日本において水辺の開発はあまり進んでいない。雨や台風が多い気候から洪水などが多かったのも理由の一つであるが、全般的に見ると水辺の開発は「治水工事」の一環であり、都市や周辺を意識したものは多くはない。水資源の豊富な日本において水辺をデザインすることは今後の都市において有効な資源活用であると考えられる。解決しなければならない色々な課題があるが「治水を中心とした開発」に対して水辺の可能性を示したい。

繋ぐ 人と街と川 — 川辺のコミュニティセンター

<都市の活性化も目標とする>
地域と敷地選定はを以下の基準で選定を行った。

「①地方都市である」「②豊かな水源があるが上手く活用出来ていない」「③成長が停滞している地区」

- ・市原市は北部は工業、南部は農業と地域のギャップが激しい都市である。
- ・養老川は都市部の中心を流れる豊かな水源であるが、特に目立つ「親水施設」はない。
- ・「高水敷」が長年放置されており有効活用されていない → 原因は管理コストの問題
- ・敷地に選んだ「出津」は、養老川を隔てる事で他の地区に比べてかなり成長が停滞してる。

<計画地>



現状

- ・道路から「1mほど下がっており「掘り状の地形」である。
(△状の地形が見られるが、不明で何かを作ろうとした跡?)
- ・遊歩道との高低差はあまり無く道路側から養老川へのアクセスには良い。
- ・Uの字の丁度、真ん中に位置しており、養老川が良く見渡せる位置。
- 「施設通過→ 養老川を見渡す → 高水敷へ降りる」の動線を工夫する設計が望ましい。
- ・河川工事の影響で、敷地周辺は10世帯くらいしかなく、新築は1軒ほどである。

- ・人の通りはほとんどなく、遊歩道を散歩する人くらいでしかない。
(夕~夜にかけては外灯が少ないかなり暗い)
- ・高水敷には自由に降りられるが、降りる人はおらず釣りをしている人もいない。

(港・河口の方が釣り場として適している為と思われる)

計画後： 敷地、湯歩道、高水敷の3つの要素を繋ぐ施設を計画することにより、人と川と街を繋いでいく。

繋ぐ 人と街と川 — 川辺のコミュニティセンター

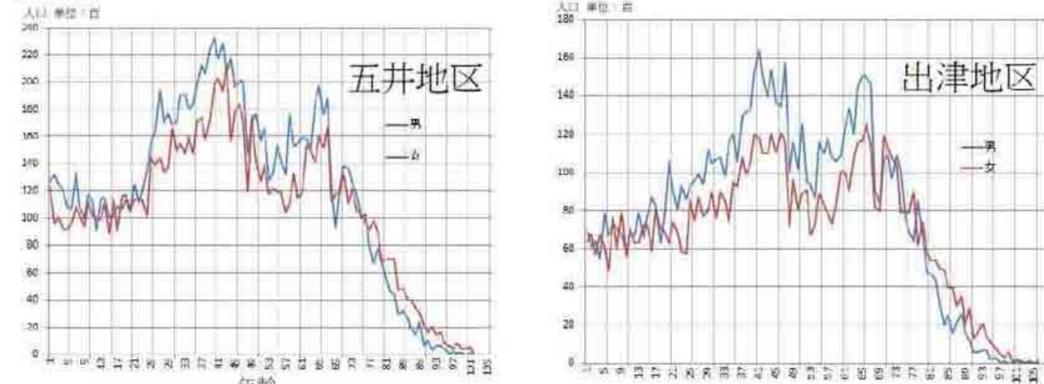
<地域分析>



「地区別」

| 10年前 | | | 現在 | | | 10年前との差異 | |
|------|---------|--------|------|---------|--------|----------|--------|
| 2003 | 世帯数2003 | 総数2003 | 2013 | 世帯数2013 | 総数2013 | 世帯数差異 | 総数差異 |
| 五井地区 | 10,774 | 36,625 | 五井地区 | 13,304 | 29,118 | ▲2530 | △7,507 |
| 出津地区 | 6,226 | 16,082 | 出津地区 | 6,936 | 15,730 | ▲710 | △352 |

「年齢別」



- 10年前と比較すると両地区ともに「世帯数」は増えているが、「総数」は減少している。核家族が増えている事が数字的に解る。
- 養老川河口から流域に沿っての住宅は減少傾向にある。
- 周辺地域で一番人口が多いのは37～49歳の第1次ベビーブーム世代であり、年齢的に子育ての家族が多いと考えられる。
- 両地区ともに、60～75代が多く見られる。セカンドライフを過ごしている方が多い。
- 出津地区の整備住宅区域に若い人が集中している傾向にあり、未整備住宅区域は古くから住んでいる高齢者と傾向がはっきり分かれている。



出津へのアクセスはさほど不便ではない。電車・車の所要時間から遠方の来人はの対応も十分に可能であると考えられる。

- 敷地の周辺には小・中・高校と揃っている。幅広い年齢がターゲットになりえる。
- 散歩、ジョギング、サイクリングを行う人達を呼びみたい（遊歩道を整備が必要）
- 河川の関係者（工事、保全、水質など）
- 地域住民が集まれる施設（出津、飯沼、島野エリアにはコミュニティセンターがない）
- 市原市には美術館（高滝）が1つ有るが、中心部からかなり遠い場所であり多くの人達を集められる施設ではない。

- A：美術館 or 市民ギャラリー
- B：地域住民コミュニティセンター
- C：川沿いの休憩所
- 散歩、ジョギング、サイクリングを行う人達が気軽に立ち寄れる場所作り
- D：ビオトープ
- 河川の生態を学べる場所の提供

分析から、総合コミュニケーション施設を検討する。

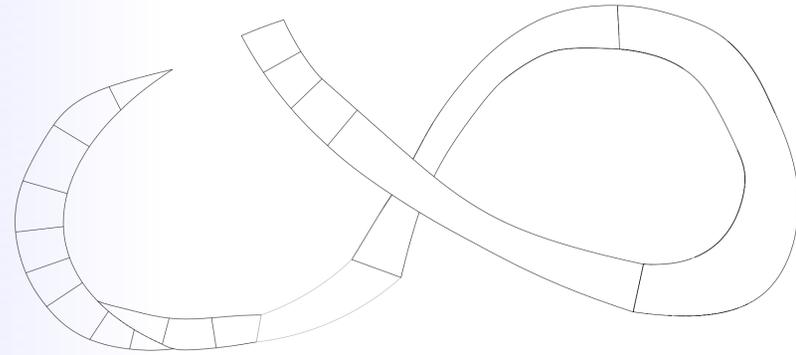
繋ぐ 人と街と川 — 川辺のコミュニティセンター

<川の要素を考える>

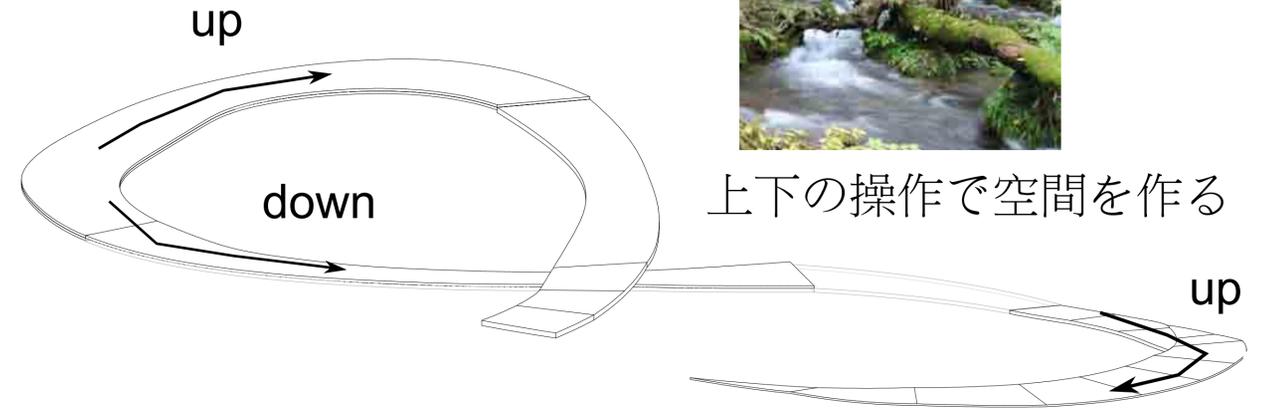
- ・ 内部と外部を繋ぐ床がすべて連続となって続いていく（回遊性）



流れのスロープ



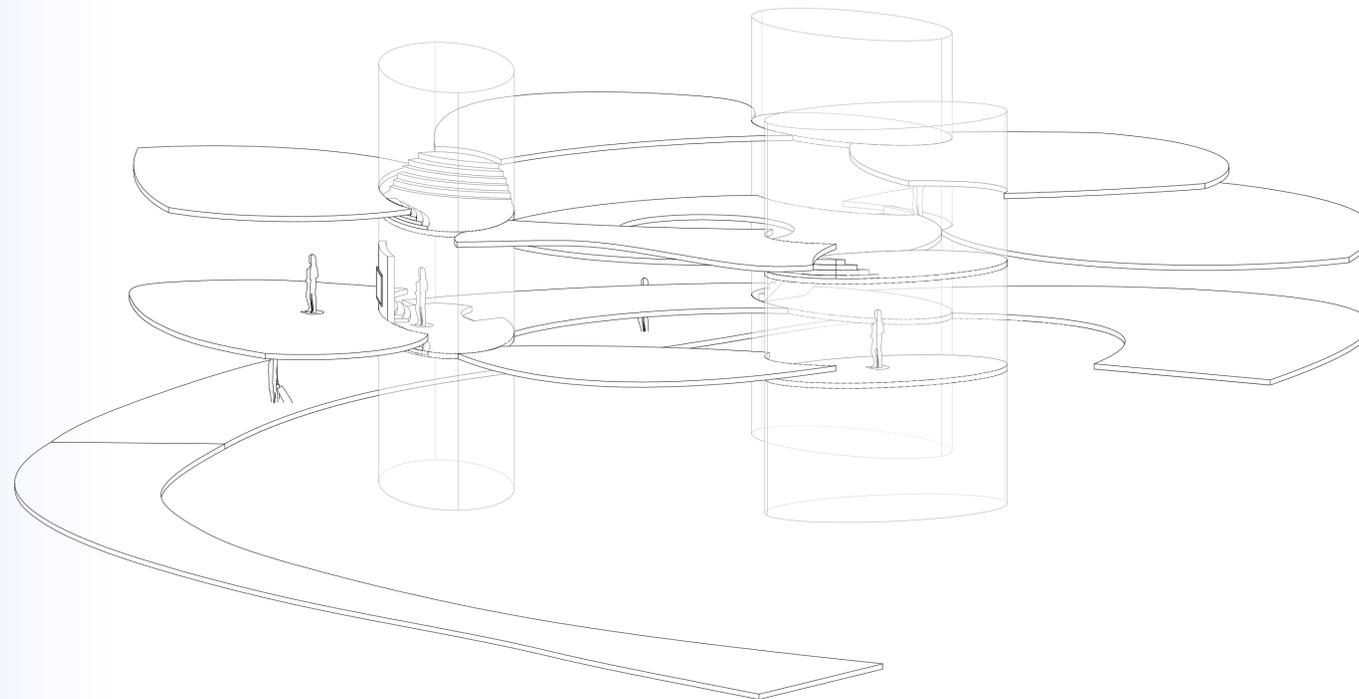
結果的に階段が少なくなる。



上下の操作で空間を作る

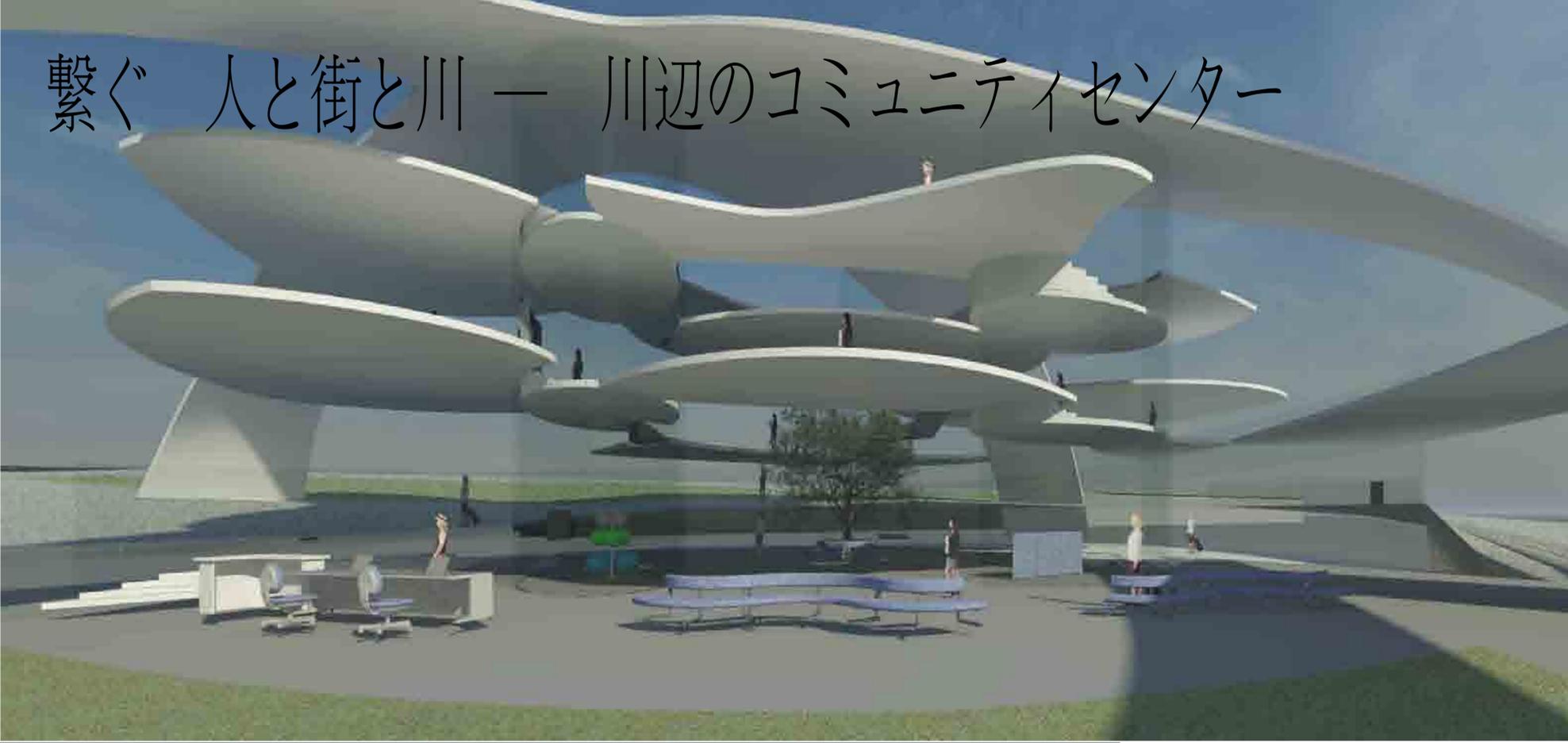


渦の様なギャラリー空間



- ・ 3つのコアによりスラブを操作し、色々な角度からの鑑賞が可能になる。
- ・ コア自体も展示スペースとして利用出来る。

繋ぐ 人と街と川 — 川辺のコミュニティセンター



繋ぐ 人と街と川 — 川辺のコミュニティセンター

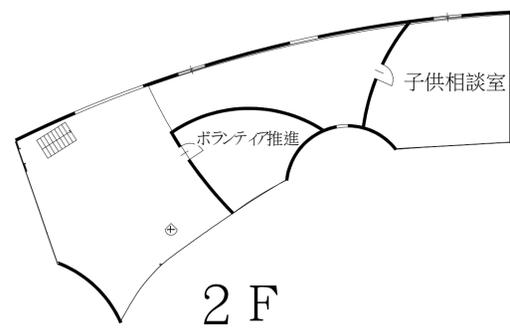
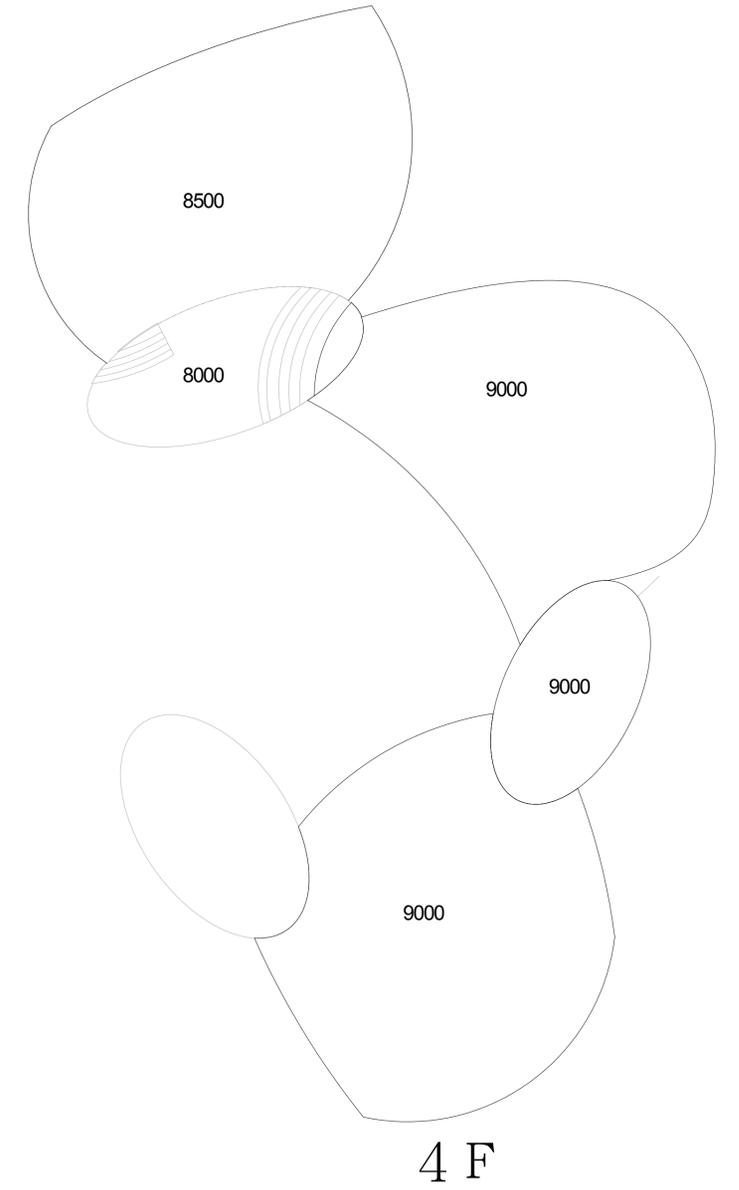
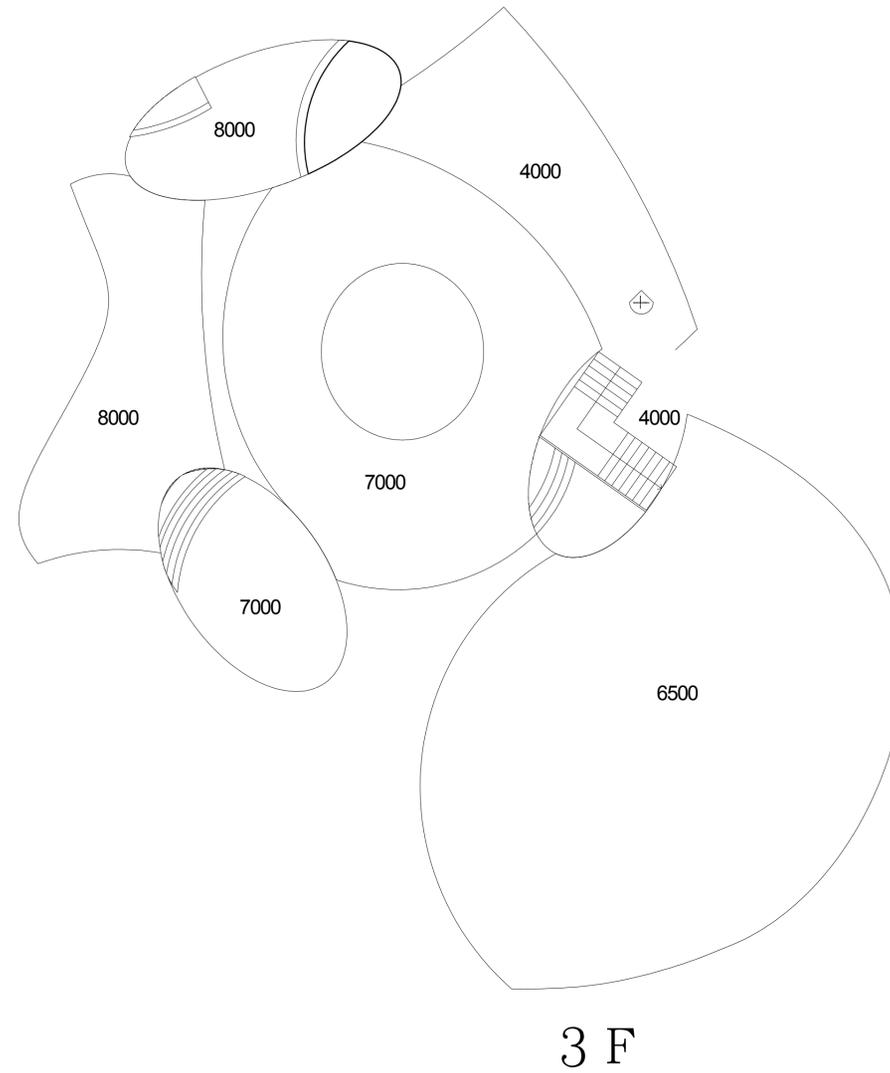
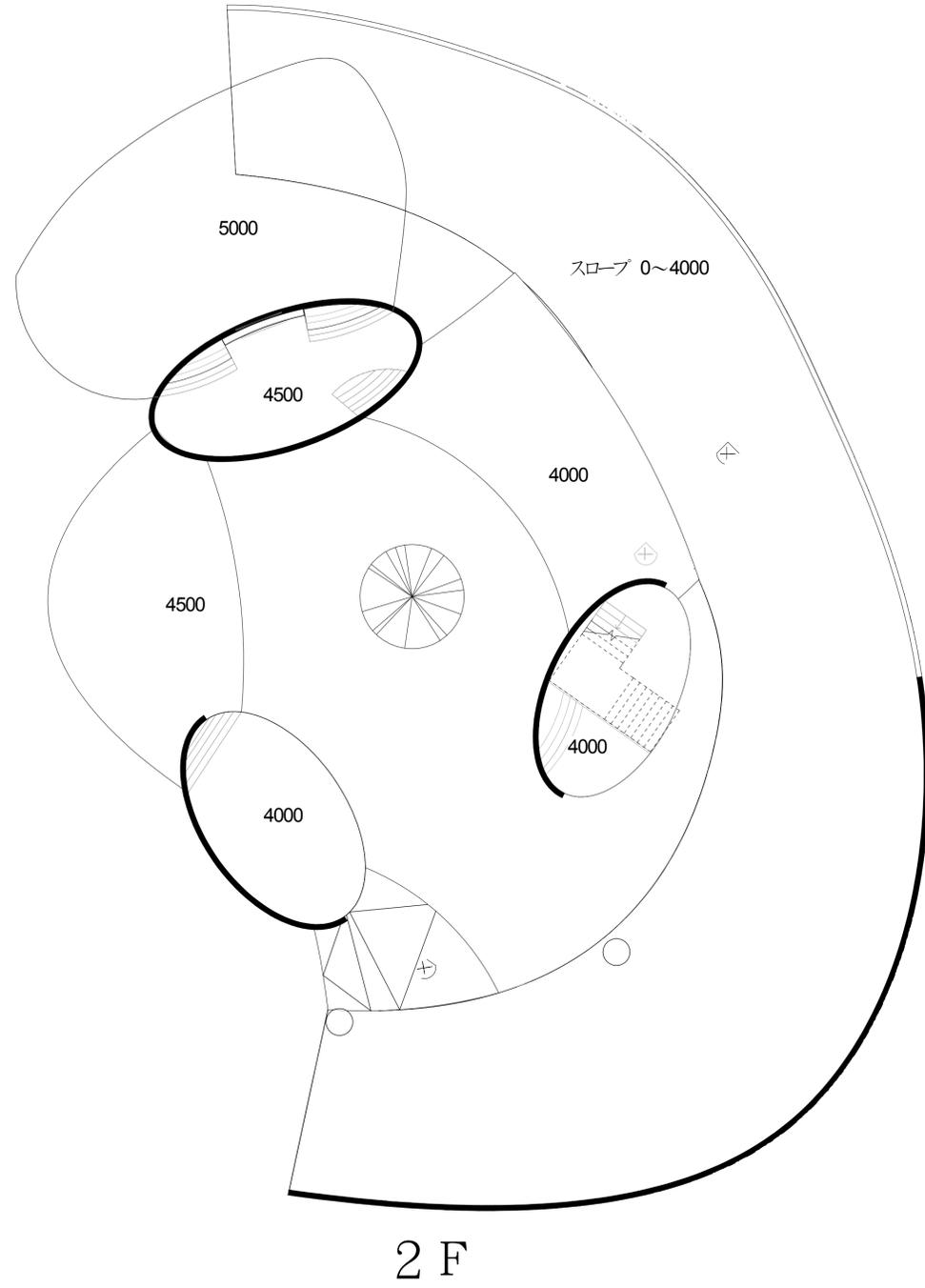


繋ぐ 人と街と川 — 川辺のコミュニティセンター

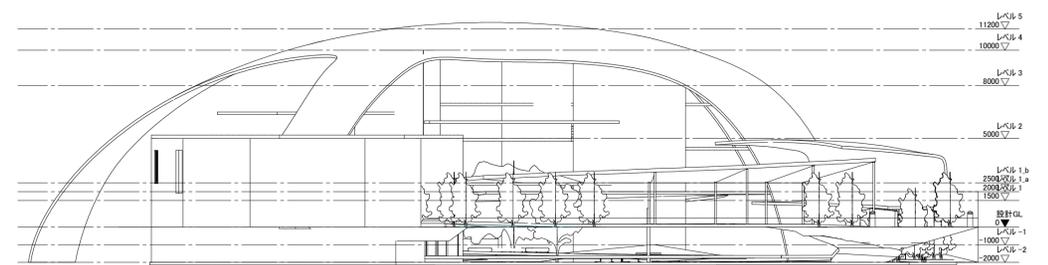
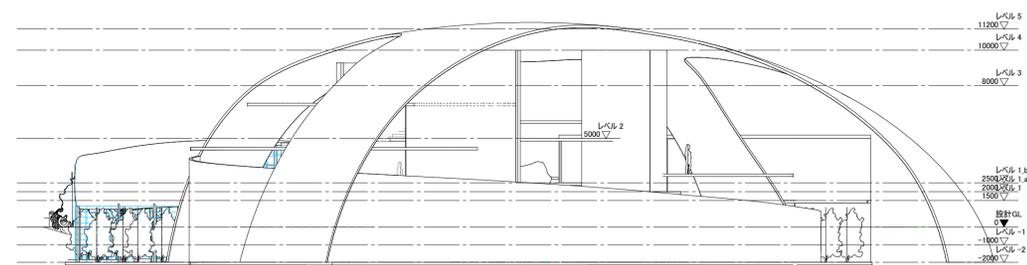
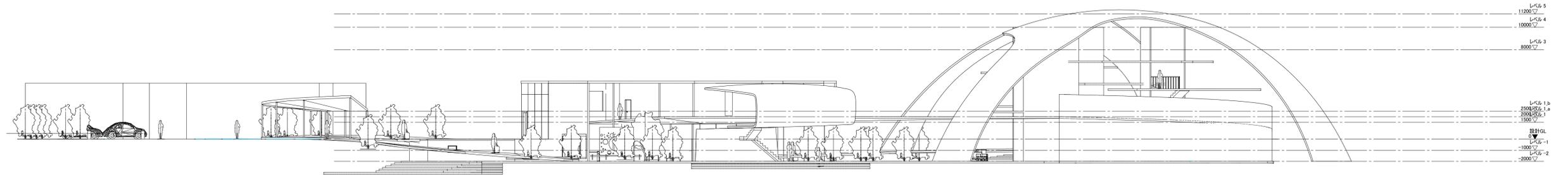
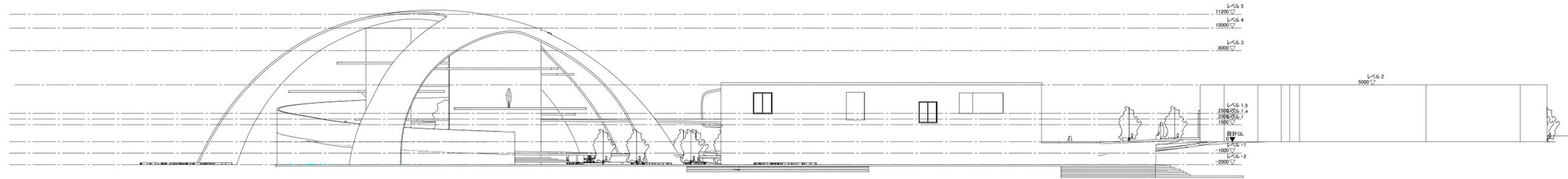


平面図 1 F 1/200

繋ぐ 人と街と川 — 川辺のコミュニティセンター



繋ぐ 人と街と川 — 川辺のコミュニティセンター



繋ぐ 人と街と川 — 川辺のコミュニティセンター

